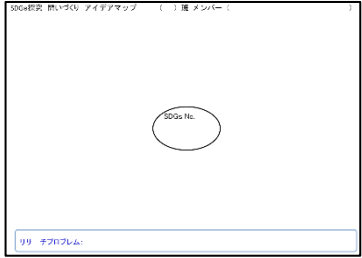


高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
SDGs の達成を目指し、Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL 型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
【知識・技能】	
<ul style="list-style-type: none"> 自分が関心のある社会的課題の内容について、自分の言葉で説明することができる 社会的課題に取り組んでいる団体、組織を訪れてフィールドスタディを実施することができる 	
【思考力・判断力・表現力】	
<ul style="list-style-type: none"> 自分が関心のある社会的課題について他者に自らの意見を伝える事ができる 自分が関心のある社会的課題について調べ、その解決方法を考案することができる 	
【学びに向かう力・人間性】	
<ul style="list-style-type: none"> 主体性をもって、粘り強く学習課題に取り組もうとしている。 社会課題を自分事とし、社会に参画・貢献する姿勢を持とうとしている。 	
下位学習目標	
【知識・技能】	
<ol style="list-style-type: none"> 自分が関心のある社会課題の内容について、自分の言葉で説明することができる 社会課題に取り組んでいる団体や組織を訪れてフィールドワークを実施することができる データや資料を適切に使って、効果的なプレゼンテーションを行うことができる 	
【思考力・判断力・表現力】	
<ol style="list-style-type: none"> 自分が関心のある社会課題について、他者に自らの意見を伝えることができる 自分が関心のある社会課題について調べ、その解決方法を提示することができる 	
【学びに向かう力・人間性】	
<ol style="list-style-type: none"> 数ある社会的課題の中から、自分自身がより理解を深め、課題解決をしたいと思うことができるものをみつけようとしている 社会課題と向き合う中で、その課題を学ぶことが自分自身の人生においてどのような意味を持つのか関連付けようとしている 社会的課題に向き合う中で、社会的・文化的・歴史的な構造と人為との関係について考察しようとしている 	

授業日	9/18(水)	2学期授業回数	3回目 / 全11回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①③ 【思考力・判断力・表現力】① 【学びに向かう力・人間性】① <本時の具体的な目標> SDGsに関わる課題に対して、問い(リサーチエスチョン)を設定することができる。		
時間 授業内容	0	導入 SDGsの領域から、課題を考えてきた。そこから3週間で問いを立てていく。「問いを立てる」とことと「どんなことが調べられるか」ということを行ったり来たりしながら、よりよい問いを作っていく。課題は大体絞り込んだので、リサーチエスチョンを立て、探究していくことを焦点化しよう。 今日からSDGsの領域から課題(例:地球温暖化)を設定し、課題からリサーチエスチョン(例:大阪府では30年間でどのくらい気温が変化しているのか)を立てる。自分たちが探究・研究で分析できる範囲を見通して問いを立てていく。できる限り、自分たちの身近で切実さがあるようなものを選んだ方が、より面白くなる。例えば、日本でも15歳~29歳の16人が、火力発電を展開する会社を対象として訴訟を起こしていることが最近の新聞に載っている。こういう人がどういう考えで、どういう論点で訴訟を起こしているのか調べていくのも面白そうだ。そして、ただ調べるだけでなく、何か+aできるような提案があるとなおよいだろう。	
	5	講義 教科書 P118④ ~課題の設定~ 大体決まっているリサーチプロブレム(課題)に対して、できるだけたくさん問いを立てて、付箋に貼っていく。問いを立てるコツは、「立場を変える」「規模を変える」。	
	15	班活動 0. 課題そのものが決まっていない場合は、課題を決める。 1. 各班でリサーチプロブレムに対して、問い(青付箋)を個人で考える(10分) 2. 問いを立てたらどの問いがよいか、グループで議論する(20分) 3. 問いに対して仮説(赤付箋)をたてる 4. 仮説を立てたら、先行研究を調べて情報をおおまかに収集し、有益なデータは今後のためにメモをとる ※調査や検証方法、どの問いがふさわしいかも議論していく	
	50	班活動の内容を全体に発表・共有、質疑応答 1. B班(質の高い教育をみんなに) 発表概要) 課題を絞っている段階。「教育格差」と「ジェンダー格差」のどちらかで悩んでいる。 質疑応答) 質問: より具体的に 回答: 貧困で教育格差を是正する取り組みについて調べている。教育におけるジェンダー、理系・文系の男女比について調べている 2. E班(海の豊かさを守ろう) 発表概要) 海洋汚染の課題から絞り、サンゴ礁の破壊について調査した。詳細はこれからだが、サンゴ礁が社会にもたらす影響や、サンゴ礁の保護について問いを出し合った。今後は、抽象的な問いから具体的な問いにしていく。 質疑応答) 質問: なぜそもそもサンゴ礁 回答: メンバーで出し合った興味・関心の中で、一番共通していると感じたものがサンゴ礁だったから	
評価方法	① 1学期に習得した内容を踏まえ、問いと仮説を作成し、班における議論や今後の計画等に積極的に参画することができる。 ② 発表者は発表・質疑応答ができる。聴衆者は発表を聞いて感じた疑問を、質問をすることができる。		
宿題指示	問いにふさわしいか(調査が可能なものか? 身近なものか?)を3週間かけて作成する。		